

第 17 回サッカースタジアム検討協議会の議事結果について

○ 議事結果

以下の 1～3 について事務局から説明し、委員による議論が行われた。

1 LCC（ライフサイクルコスト）の試算結果 【資料 2】

LCC の収入について、次回協議会までにプロ球団使用料を提出していただき、それを反映した LCC の試算を次回協議会に提出することとした。

○ みなと公園には、公園の代替地確保の費用が入るべき。

⇒ 港湾緑地については、緑地の規模や配置などの見直し検討の中で、公共用地間での代替地も含めて、利用可能な用地の確保などの調整を進めていくことになると考えており、具体的な調整を進めてみないと判明しない（県港湾局）ため、費用の推定は行わない。

2 候補地別評価表 【資料 3】

本日の議論を踏まえ、会長と事務局で修正案をまとめ、各委員に事前に提示することとした。なお、経済波及効果、運営・維持管理コストについては、プロ球団使用料を評価表に反映する。

○ 旧広島市民球場跡地の場合は 3 万人規模にこだわる必要はない。

⇒ スタジアムの適正規模は、最終取りまとめの中で整理する。

○ 「アクセス性」「自動車利用」の「概ね 10 年の間に計画されている道路関連施策」は評価を外すべき ⇒ 評価なし「－」とする。他の項目（公共交通利用）も同様とする。

○ 「発信性」において、中央公園、旧市民球場跡地に「平和都市のシンボルとしてさらに印象付ける街中スタジアム」の記述を入れるべき ⇒ 加筆修正する。

○ 「経済波及効果」において、中央公園はみなと公園とさほど変わらないため、△→○に修正すべき ⇒ ○に修正する。

○ 経済波及効果に複合開発分を含めるならば、イニシャルコストにも複合開発のコストも入れるべき ⇒ 複合開発は、スタジアム建設主体とは別の主体が整備するため、整備コストには入れない。経済波及効果については、別の主体が施設整備を行うが、その効果は発生する。効果は相乗的なものであるため、プラス α として評価する。

○ 「迅速性」に関しては地元調整など不確定要素が多く、評価をしない、あるいは一律の評価がよいのではないか。

⇒ 住民合意などの不確定要素は全ての候補地に当てはまるため、スタジアム完成までに要する期間の長短に影響すると思われる手続きの数で評価する。

3 候補地別評価表 【資料 4】

広島広域公園は、検討対象候補地としないことで了承された。

○ スタジアム改修に新設と同程度の費用がかかる。

○ アクセスについては、将来的に改善されるが、それでもなお、3 万人規模の観客を短時間で処理することは困難である。など

4 その他

会長から、最終取りまとめのため、11 月も引き続き協議会を開催するよう提案があり、了承された。